

中村 貴太郎

助教
修士(保健学)

Kitaro Nakamura

✉ kitaro.nakamura@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

神経生理学、神経病理学

プロフィール

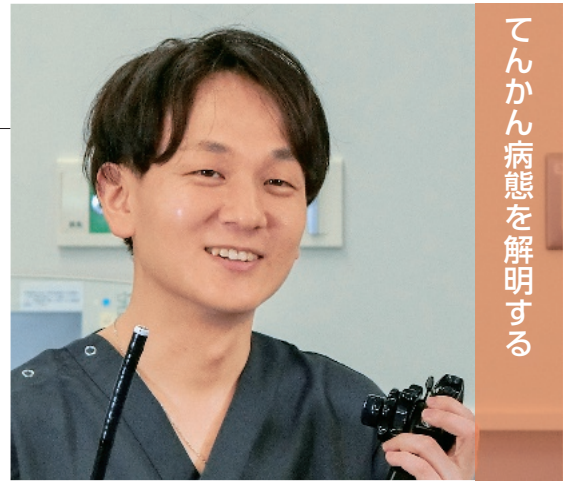
2011年 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 臨床工学技士
2024年 公立小松大学大学院 サステイナブルシステム科学研究科 ヘルスケアシステム科学専攻
修士課程修了
2024年 公立小松大学 保健医療学部 臨床工学科 助教

研究分野

病態神経科学

所属学協会

日本臨床工学技士会



てんかん病態を解明する

専門分野・研究分野

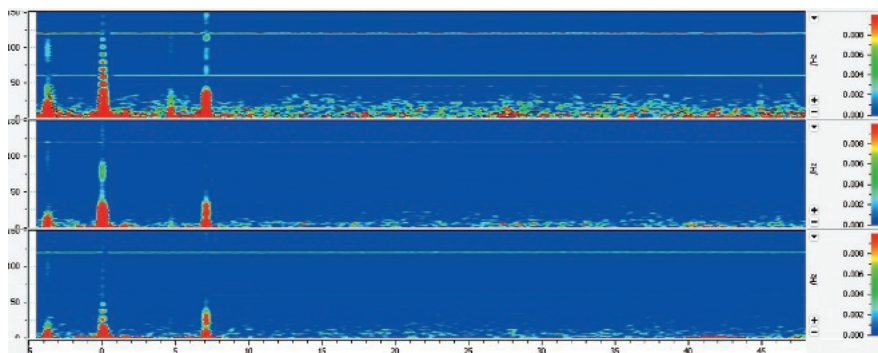
てんかん病態の発作機序の解明

てんかん患者は日本全国におよそ100万人いるとされており、子供に多い疾患ですが、高齢化社会のため脳疾患による高齢者の発症も増えてきております。既存薬の服用や、発作源の脳を切除することにより、発作をある程度抑制することは可能ですが、抑制が難しい難治性てんかんの方も存在します。我々はてんかんの動物モデルの作製し、それらの脳からてんかんの発生機序や、薬剤について研究することにより難治性てんかんの解明に取り組んでおります。

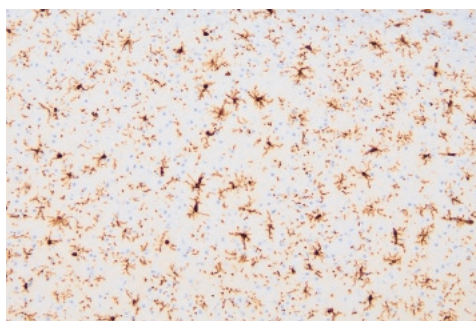
研究内容

動物モデルによる発作原生の解明

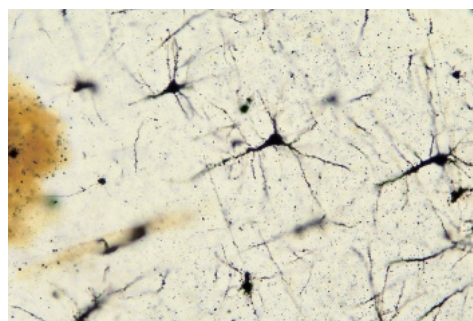
てんかん抑制への新たなアプローチのため、新規に構築した動物モデルを作製し、既存薬の薬効機序、神経活動制御装置の開発に取り組んでおります。また発作焦点を有した動物モデルに対し、光による視覚刺激がトリガーとなり、てんかんの発作行動を引き起こす動物モデルの作製に挑戦し、よりヒトの発作形態に近いてんかん研究を進めています。



1. 視覚刺激による脳波の周波数解析



2. Iba-1染色によるミクログリア



3. ゴルジ染色による神経細胞

シーズ・地域連携テーマ例

- てんかん動物モデルを用いた病態生理学的研究

論文

- Data on plasma cortisol levels in nibbler fish *Girella punctata* reared under high-density conditions in either surface seawater or deep ocean water. Ikari T, Hirayama J, Rafiuddin MA, Furusawa Y, Tabuchi Y, Watanabe K, Hattori A, Kawashima R, Nakamura K, Srivastav AK, Toyota K, Matsubara H, Suzuki N. Data Brief. 2023 Jul 4; 49:109361. doi: 10.1016/j.dib.2023.109361.